

2020年度 教員の教育力向上のための授業改善研修会 発表報告

発表者 山路康文

所属研究室 クラフトデザイン研究室 (プロダクトデザイン)

■授業実施ツール・方法

:ライブ授業	■meet を使用し、授業資料の画面共有とペンタブによる即時書き込み
:資料共有	■Google Class Room(以下 GCR)による事前事後資料共有:
:授業資料	■PPT により作成
:学生配布資料	■PPT 授業資料の PDF 化
:情報保障対応 1	■ライブ授業の録画 (meet 機能)
:情報保障対応 2	■授業録画への字幕付け (texta 利用)
:動画資料編集	■AdobeCC PremierePro 使用 > ダウンサイジング (140MB 程度)

■授業実施に際し、工夫した点や今後の授業運営で活用できそうな点

- :初回授業で履修学生全員の「履修理由と期待」をアンケートし授業構成に反映
- :授業資料を画像と図式をメインに構成＝理解のし易さを期待
- :ワークの量と求める質のハードル下げ＝文字数 200 文字程度&「やってみる」事を評価すると明言
- :ワークのモチベーション向上＝各回の学びを身の回りの事象に置き換えて記述させる
- :3つの情報保障対策
 - 1・授業資料への話し言葉補足
 - 2・ライブ授業録画
 - 3・録画動画への字幕付加
- :13回の授業中、3回の授業内容及び通信環境のアンケート実施し改善 (出欠&出題方法・説明方法など)
- :座学だけでなく「身体」を動かす内容を入れ込む
- :ワーク休回を設ける＝遠隔授業群のレポート過多傾向の学生救済措置 (修学意欲向上も期待)
- :各回提出ワークへのコメント返信 (後半は返しきれなかった、、、反省)
- :PDF 資料・動画資料のダウンサイジングで学生の通信コストを抑えた

■問題点や改善点、成功事例

: この項目は事項と重複するので省略させて戴きます。

■学生からの要望・意見に対する対応事例

- : 講義内容を各コースや 学生の期待に合わせて説明した
 - ★アンケートで各コースの事情や学生の期待が異なる事が判明したため
- : GCR の投稿回 数を削減＝一度の投稿で授業資料・出題ワーク・出欠を同時に行う
 - ★アンケートで GCR 関連のメールで学生のタイムラインが飽和状態と判明したため、
- : ペンタブツールの導入 (初期から書き込み自体は高評価)
 - ★初回からマウスでの即時書き込みしていたが、読みにくいとの指摘があったため
- : ワークの量と求める質の負担軽減
 - ★学外の情報と学生へのアンケートの結果、レポート量が多い事が判明
- : ライブ授業の継続
 - ★3回目終わった時点で通信負荷考慮し「オンデマンド化」を打診するも、全員がライブ授業を望んだため。
- : 授業録画の共有
 - ★情報保障の為に始めたが、学び返しの効果を求められ継続